

2020年度事業計画および収支予算



2020年6月12日
北陸経済連合会

北陸の経済情勢については、わが国はもとより世界の経済活動に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症の拡大により、日銀金沢支店や北陸財務局等が北陸の景気判断を引き下げたほか、当会が実施した会員アンケートにおける景気動向調査でも、業種を問わず悪化したとの回答が7割近くを占めるなど、先行きの不透明感が一層強まっている状況にある。

また、国際通貨基金(IMF)の世界経済見通しによると、新型コロナウイルスが早期に収束したとしても、2020年の世界経済の成長率がマイナス3%になると予測している。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しは立っておらず、長期的な対応を覚悟しなければならないが、一方で、地域の持続的発展に向けた取り組みも着実に進めていかなければならない。

第四次中期アクションプラン(2016～2020年度)の4年目である2019年度は、6月の定期総会で「北陸近未来ビジョン」を発表し、北陸新幹線全線開業後の2030年代中頃の北陸のありたい姿を『スマート・リージョン北陸』として取りまとめ、当会が今後取り組むべき活動の方向性を示した。

北陸新幹線については、昨年10月の台風19号による浸水被害の影響で約2週間にわたり金沢・東京間の直通運転が休止され、観光等を中心に甚大な影響があった。こうした中、当会と関西経済連合会、大阪商工会議所の3者で北陸新幹線の大阪全線開業時期の前倒しによる経済波及効果を調査し、2030年まで16年前倒しした場合に約4兆3,000億円、年平均で約2,700億円の効果が見込まれるとの試算結果をもとに、与党や国交省等に対して早期全線開業の要望を行った。こうした関経連等と連携した取り組みにより、大阪延伸の機運が関西でも醸成されてきている。

また、中経連など各経連と連携しての防災・減災に資する国土強靱化税制の強化に向けた取り組みや、経団連との連携協定に基づくマッチング事業、産学金官連携、女性活躍推進、国際交流促進、広域観光推進等を進めた。

現行アクションプランの総仕上げの年となる2020年度は、『スマート・リージョン北陸』を見据え、持続可能な社会の実現(SDGs)に向けた取り組みを進めていく。

「住みたい、働きたい、魅力あふれる北陸」に向けては、東京一極集中を打破し、定住人口増加を目指すべく、大学と連携した留学生を含めた学生の域内就業促進や、女性並びに若者の活躍推進、国等に対する提言活動等による「地域力の向上」に取り組む。

また、産学金官連携によるイノベーションの創出と企業間連携や、Society5.0の実現に向けたAI、IoT、5G等の先端技術に関する人材の育成と情報発信、ベンチャー育成に関する支援事業、優れた技術等を持つ北陸企業等のPR、大都市圏に対する北陸への企業誘致活動等の「産業振興」に取り組む。

「三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海国土軸の中核としての役割を担う北陸」に向けては、北陸三県や関西経済界と連携し、北陸新幹線金沢・敦賀間の2022年度末までの確実な開業、並びに切れ目のない敦賀・新大阪間の着工による2030年頃までの一日も早い大阪までの全線開業を目指す。

また、人流・物流の基盤であり、他地域での災害発生時の代替機能を担う道路・港湾・空港の整備促進に向けた取り組みを進める。

「地域の魅力を積極的に国内外に発信することにより、人や企業を惹きつける北陸」に向けては、海外諸国との経済交流会議の実施、首都圏・関西圏等へのPR・誘客活動に取り組む。また、当会が提唱する「ゴールデンループ」による広域観光の推進・強化に取り組む。

さらに、本年は北陸近未来ビジョンで掲げた『スマート・リージョン北陸』の実現に向けた次期5か年の事業計画(第五次中期アクションプラン)を策定する。

以上の方針に基づき、2020年度の事業計画を策定したが、今後の新型コロナウイルス感染症の状況や経済情勢を見ながら、優先度を勘案しつつ、各事業を準備・実施していく。

【主な事業活動】

I. 住みたい、働きたい、魅力あふれる北陸

< I-1 地域力の向上 >

- ・「北陸近未来ビジョン」の実現に向けた第五次中期アクションプランの策定・公表
- ・北陸地域内大学との連携による人材育成および留学生を含めた学生の域内就業促進
- ・女性、若者、シニアの活躍推進に向けた活動
- ・国土強靱化に資する社会インフラ整備促進、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働、産業振興、広域観光振興、地域力向上等に関する要望活動

< I-2 産業振興 >

- ・域内産業集積を活かしたものづくり拠点形成に向けた支援活動
- ・新規事業創出、産業高度化、付加価値向上のための産学金官連携およびベンチャー振興に関する支援活動
- ・Society 5.0の実現を支えるAI、IoT等の先端技術に関する人材育成および情報発信
- ・北陸の企業・大学との域内連携および経団連との連携協定に基づく大企業との連携支援
- ・優れた技術等を有する北陸企業等のPRおよび大都市圏に対する北陸への企業誘致活動

II. 三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海国土軸の中核を担う北陸

< II-1 社会基盤整備 >

- ・北陸三県や関西経済界との連携による北陸新幹線金沢・敦賀間の2022年度末までの確実な開業および関西・中京圏へのアクセス向上に向けた活動
- ・北陸新幹線敦賀・新大阪間における環境アセスメントの迅速化による2022年度中の工事認可と速やかな着工、並びに2030年頃までの一日も早い大阪までの全線開業に向けた活動
- ・防災・減災に資する高規格幹線道路等の都市間道路ネットワークの充実に向けた活動

III. 地域の魅力を積極的に国内外に発信することにより、人や企業を惹きつける北陸

< III-1 国際化促進 >

- ・企業の国際化展開に資する調査研究、情報発信、セミナー等の実施
- ・ASEAN諸国等との経済交流会議の実施

< III-2 広域観光振興 >

- ・北陸三県の広域観光振興(「北陸三県誘客促進連携協議会」への参画等)
- ・観光データの情報提供および観光データ等の分析に基づく広域観光戦略の検討
- ・北陸物語HP・Facebookによる北陸の魅力に関する情報発信の充実(インバウンド対応等)

I. 住みたい, 働きたい, 魅力あふれる北陸	1. 地域力の向上	総合対策委員会
-------------------------	-----------	---------

第四次アクションプラン実施項目(2016~2020年度)		2020年度実施計画	今後の課題・方向性
(1) 地方定着・地方回帰による定住人口増加に向けた取り組み	①魅力ある仕事, 職場の創出	・企業の技術開発や競争力の強化、人材育成に資する国・県等の支援制度の紹介(HP、トピックス、懇談会等)	(継続実施)
	②北陸地域内大学との連携による人材育成および域内就業促進	・「北陸のシェアトップ150」等による北陸地域の優れた企業のPR (「北陸のシェアトップ150」の各大学への配布、周知、大学説明会等での活用)	(継続実施)
		・域内大学との連携 * 北陸産学連携懇談会(学長懇談会) : 9/25[富山県立大学] * 北陸産学連携交流会(部門長会議) : 2019年度からの延期分も含めて開催	・産学連携の強化に向けた意見交換の継続実施
	③域外大学進学者等のUIJターンの促進	・北陸AJEC等との連携による域内大学留学生の域内定着(就業)支援	・ASEANを中心とした経済交流会議等の場を活用した域内大学留学生の域内定着(就業)に向けた取り組みの継続実施
(2) 女性が働き続けられる社会の実現に向けた取り組み	①女性部会の提言	・域外大学(関西圏大学の就職担当部門)と会員企業との情報交換会開催に向けた検討	・関西圏の大学との情報交換会開催に向けた交渉(参加大学の発掘、開催日程調整等)
		・「女性が働きやすい北陸」とのブランドづくりに向けた取り組みの検討と実施 * 女性の流出対策 * 女性の多彩な活躍の促進 * ダイバーシティ&インクルージョン * 女性部会としての政府要望項目検討、政府要望活動への参加	[女性の流出対策] ・ひとり親家庭の北陸移住推進に関する北陸三県との意見交換 ・女性流出に関する実態調査による課題把握 [女性の多彩な活躍の促進] ・企業と男女双方の意識改革に向けた取り組み(エキスパートやリーダーの育成・登用、ロールモデルづくり等) [ダイバーシティ&インクルージョン] ・性的マイノリティへの取り組みなど(対応事例紹介、勉強会の実施等)
(3) リタイア人材の活用		・国、自治体等が主催するセミナー、合同説明会、各種支援制度等の当会HP、懇談会等を活用した支援、紹介	(継続実施)
(4) 二地域居住の推進支援		・北陸イメージアップ推進協議会HPとの連携による北陸の魅力PR、北陸域内の事例等の発信	(継続実施)
(5) 魅力あるまちづくりに関する取り組み	①北陸地域内の地域経済の専門家とのネットワークづくり	・北陸地域政策研究フォーラムとの連携 ・会員大学研究者等の活用(会員懇談会等での講演等)	(継続実施)
	②PPP、PFI等民間活力の活用	・地域プラットフォームへの参画 ・コンセッション方式(インフラ運営権の民間への売却)等、官民連携に関する勉強会開催	(継続実施)
(6) エネルギーセキュリティ強化に向けた取り組み	①原子力, 再生可能エネルギーの推進	・政府要望への織込み ・経産局等への協力等(経産省事業等への後援、支援等)	(継続実施)
	②水素エネルギー, 地熱, メタンハイドレート等の活用推進支援		(継続実施)
(7) 国等に対する提言機能の強化		・政府要望活動(政府要望WGでの要望事項検討、政府与党等訪問) ・国等の活動フォロー ・行政当局・政党との懇談会開催	・会員へのアンケート調査結果や新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動への影響緩和策に関する要望の反映
(8) その他		・「地域経済活性化に向けた連携協定」(協定先: 日本経済団体連合会)の会員企業・大学へのPR、積極的な利用促進 ・第五次中期アクションプラン(2021~2025年度)の策定・公表(調査委託先: 日本経済研究所、北陸経済研究所) ・公正取引委員会から講師を招いての講演会実施(公取が重視する監視対象[優越的地位の濫用]に関する具体的取締事例紹介等)	・北陸近未来ビジョンを踏まえた第五次中期アクションプランの策定と新春経済懇談会(2021年1月予定)での公表

I. 住みたい、働きたい、魅力あふれる北陸 2. 産業振興 先端技術推進委員会

アクションプラン実施項目	2020年度実施項目	今後の課題・方向性		
(1) 域内産業集積を活かしたものづくり拠点形成支援	HIACとの一体運営で実施 ① ライフサイエンス産業の振興支援 (HIAC: (一財)北陸産業活性化センター)	ライフサイエンスクラスター事業等の活動支援 [HIAC実施、北経連支援] ・北経連のネットワークの活用等による情報提供 ・講演会、セミナーの開催に対する協力 ・その他ライフサイエンス分野の振興支援		
	② 高機能新素材産業の振興支援	高機能新素材(CFRP,チタン等)の最新情報の収集及び情報発信の実施 ・超高強度チタン(開発支援終了、特許出願中)の用途開拓支援 ・異種物質の接合技術紹介及び技術導入支援	・2017年度で終了した北陸ライフサイエンスクラスター形成事業のフォロー期間(~2020年度)のサポート (HIACと連携して継続実施) ・異種物質(CFRPと金属など)の用途は航空機・自動車産業に広がっており、引き続き情報収集し、会員企業に情報発信をしていく。 [CFRP:炭素繊維強化プラスチック]	
(2) 新規事業創出、産業高度化、付加価値向上のための産学金官連携支援		① 関連団体等との連携による推進	関係各所と連携し、Society 5.0 等に関する各技術分野の最新情報の収集及び情報提供を推進 ・北陸情報通信協議会(総務省北陸総合通信局)との連携・協力 ・中部経済産業局・近畿経済産業局との連携・協力 ・会員大学との産学連携推進 ・医工融合研究会への支援 等	
		② 技術アドバイス・コーディネート活動 [HIAC実施、北経連支援]	HIACと連携し、各種交流の場を通して得られた大学の研究シーズや企業の新技術などを関連企業等へ紹介 ・北陸の企業間、企業・大学間でのマッチングの推進 ・日本経済団体連合会(経団連)との連携協定を活かし経団連企業とのマッチングの推進	(継続実施) ・大学産学連携窓口との連携強化
		③ 北陸産学技術交流会(会員企業、大学等の見学会)	2019年度から実施している会員大学の産学連携部門や研究者と企業の開発部門の実務者が参加する大学・企業・公設試験場の見学会を積極的に開催していく。	(継続実施) ・朝日印刷(株)[2020.3から延期] ・調整予定: 富山大学都市デザイン学部、石川県工業試験場、福井工業大学 ⇒新型コロナ影響によりスケジュール等の調整次第で変更可能性あり
	④ 北陸地域ものづくり展示会への出展・支援	北陸地域の展示会に出展し、北経連の活動紹介と下記を実施 ・「北陸のシェアトップ150」を配布し、北陸のものづくり企業PR ・会員大学の研究内容紹介を支援	(HIACと共同出展し継続実施) 【出展予定】 ・10/22-23 北陸技術交流テクノフェア ・10/29-31(5月開催から変更) 機械工業見本市(MEX金沢2020)【初出展】 ・11/5-6 Matching HUB	
(3) 新技術等の活用による産業振興支援	① 講演会、セミナー等による事例紹介、啓発	・Society 5.0 等の最新技術に精通した講師による講演会、セミナー等を開催し、時宜を得た情報提供・事例紹介を実施 (例:IoT、5G、ビッグデータ、AI、ロボテックス、自動運転、MaaS、水素技術等)	(HIACと連携して継続実施)	
	② 先端技術施設、研究施設の視察会	北陸内外の大学の研究施設や企業の先端施設の視察会等を実施し、最新技術を紹介	(継続実施) ・9/25予定 富山県立大学見学会(総合対策委員会と共催) ・北陸域外の先端技術企業等の視察	
	③ ベンチャー振興支援	・北陸内外のベンチャー動向に関する情報収集・提供 ・会員企業とベンチャー企業等との交流促進 ・経団連との連携協定を活用し、北陸の有望なベンチャー企業等を経団連会員企業へ紹介	(HIACと連携して継続実施) ・2019年4月に公表した「ベンチャー振興の提言」に沿った支援方策の検討	
(4) 企業の人材育成支援	① 講演会、セミナー等による事例紹介、啓発	関係機関との共催・後援、大学のリカレント教育などを活用した会員企業の業務能力向上を支援 (テーマ:IoT、データサイエンス、AI、サイバーセキュリティ等) ・デジタル人材育成の経営者向けセミナーの開催 ・企業向けデジタル人材育成教育等についての枠組み検討 ・地元大学等のリカレント教育等の情報提供	(HIACと連携して継続実施) ・デジタル人材育成セミナーの講師選定等 ・データサイエンス・AI等のリカレント教育の情報収集	
(5) 企業誘致等	① 域外企業の本社機能移転、事業所新設の促進支援、研究機関等政府関係機関の誘致支援	関係機関と協力し、首都圏、及び中京または関西圏における大規模展示会に出展し北陸の企業立地環境のPRを実施	(継続実施) 下記展示会に各県の企業誘致担当と北陸電力との共同出展予定 ・11/4-7 メッセナゴヤ(名古屋市) ・2/3-5 日本ものづくりワールド(東京 幕張)	
(6) 6次産業化に資する農林水産業との連携	① 域内農林水産業の競争力強化支援	スマート農業に取り組む企業や大学研究者、行政と連携し、農業生産・流通分野における先進的事例等の情報収集・提供	(継続実施) ・新しい農業資材や薬用植物に関わる情報収集・提供	

Ⅱ. 三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海国土軸の中核としての役割を担う北陸	1. 社会基盤整備	社会基盤整備委員会
--	-----------	-----------

第四次アクションプラン実施項目(2016～2020年度)		2020年度実施計画	今後の課題・方向性	
(1) 広域社会基盤整備の推進	① 関東、関西および中部との交流促進のためのアクセスの向上	北陸新幹線の敦賀までの早期開業	① 北陸三県等と連携した政府・与党等に対する、2022年度末までの確実な開業に向けた要望活動 ② 敦賀開業後の関西・中京圏へのアクセス維持向上に向けた要望活動	・継続実施
		フル規格での大阪までの延伸	① 大阪までの2030年ごろまでの一日も早い開業に向け、北陸三県・関西経済連合会等と連携した政府・与党等に対する要望活動実施。 ② 関西地域と連携した現地での北陸新幹線PR活動	・継続実施
		ゴールデンループの周知	① インバウンド需要のみならず、大規模災害時の国土代替補完機能としてのゴールデンループをアピール。	・継続実施
	② 陸・海・空一体となった人流・物流基盤の整備促進	太平洋側での巨大災害発生時に実質的な代替機能を持つ物流ネットワークの整備	① 「北陸地域国際物流戦略チーム広域バックアップ専門部会」への参画 ② スマートロジスティクス、最新のインフラ建設技術に関する情報収集、勉強会等の実施 ③ 防災・減災への取組み ・太平洋側代替機能のアピール ・西日本経済協議会「防災連絡会」での議論・意見交換 ・「国土強靱化税制」実現など、広域的な取り組みの実施	・「専門部会」に引き続き参画 ・物流や建設業における、IoT・AI・5G等の先端技術を利用した生産性向上事例等に関する情報収集及び勉強会を実施。 ・北陸新幹線、港湾整備、高規格道路等の要望にあたり、災害時における太平洋側の代替機能をアピールしていく。 ・「防災連絡会」において議論・紹介された先進事例等を、当会の取り組みに生かしていく。 ・他経済連合会と協力し、民間企業の防災に関する設備投資を促すための税制改正に向けて活動する。
		高規格幹線道路の4車線化、ミッシングリンクの解消	政府への要望の実施、国土交通省との懇談会等における要望 ① 高規格幹線道路の整備促進・完全4車線化の実現 ② 事故・渋滞削減に資する地域高規格道路の整備促進	・継続実施 ＜対象となる高規格幹線道路＞ 東海北陸自動車道、舞鶴若狭自動車道、能越自動車道、中部縦貫自動車道
		・北極海航路等利用拡大に対応する日本海港湾 拠点の国際化	① 整備促進に向けた北陸三県・他経済団体等との連携、政府への要望活動の実施 ・国際物流環境の変化やクルーズ船誘致に対応する日本海側拠点港の整備促進 等 ② 東海地区での北陸港湾ポートセールスの実施 ・北陸港湾の利用拡大を荷主企業等へPR ③ 「北陸港湾ビジョン」検討委員会への参画	・要望活動、北陸港湾PRの継続実施 ・「北陸港湾ビジョン」検討委員会(北陸地方整備局) －中長期的な北陸港湾のあり方を検討 －学識経験者、経済団体、港湾管理者で構成 －2020年末にとりまとめ予定
		北陸地域内2次交通ネットワークの利便性の向上	① 整備促進に向けた北陸三県・他経済団体等との連携(政府への要望活動の実施、利便性向上に向けたバス・私鉄事業者との連携等) ② 各県並行在来線利用促進協議会等への参加	・継続実施
		・北陸地域内空港の活性化(LCCの誘致、プライベートジェットの受け入れ推進等)	① 活性化に向けた行政、航空会社等との連携によるPR ・富山、能登、小松空港の便数維持、乗り継ぎ割引の拡大 政府への要望活動の実施 ・国内地方路線網の維持・拡充に向けた支援 ・新規路線の開設および国際航空貨物便の拡充に向けた支援 ② 羽田空港でのイベント等を通じ北陸地域の空港と羽田間の利用促進PR	・継続実施

Ⅲ. 地域の魅力を積極的に国内外に発信することにより、人や企業を惹きつける北陸	1. 国際化の推進	国際交流推進委員会・北陸AJEC
---	-----------	------------------

アクションプラン実施項目(2016～2020年度)	2020年度実施計画(案)	今後の課題・方向性
<p>(1)北陸地域・企業の国際化のあり方・方向性の提言</p>	<p>2020年度は、外国人材の活用など過去4年間の研究成果を踏まえ、今後の国際経営環境の変化と北陸企業の国際化のあり方について調査研究する。</p> <p>1.調査研究名(仮称) 今後の国際経営環境の変化を見据えた北陸企業の国際化のあり方・方向性</p> <p>2.調査内容 過去4年間の研究成果に加え、新たに ①想定される今後の企業経営を巡る国際環境の変化 ②北陸地域内外の国際企業の先進的な取組み事例を調査し、これらを踏まえて北陸企業の今後の国際化のあり方について、北陸企業・行政等への提言をまとめる</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>(変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域経済連携の進展 ・国際競争の激化 ・アジアの更なる経済発展 ・AI、5Gの普及 等 </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>(必要な取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果敢な海外市場開拓 ・高度外国人材活用推進 ・生産性向上 ・IT技術活用推進 </div> </div> <p>3.調査方法・体制 企業経営を巡る国際環境の変化に精通し、企業・地域調査に習熟している(株)日本経済研究所に調査委託する。 また、北陸AJEC企画部会委員を中心とする検討委員会を設け、委託先への助言等を行うことを検討。</p>	<p>○調査成果物 (1)報告書(冊子) ・過去4年間の研究成果整理 ・今後想定される国際経営(ビジネス)環境の変化 ・環境変化が北陸企業・地域に及ぼす影響 ・国際化企業の先進的な取組み事例(10社程度) ・北陸企業、行政等への提言 (2)サマリー</p> <p>○スケジュール 2020年 1月 委託契約締結、調査開始 2020年 9月 中間とりまとめ 2020年 12月 調査結果取りまとめ 2021年 3月 成果報告(セミナー開催)</p>

アクションプラン実施項目2016～2020年度)	2020年度実施計画(案)	今後の課題・方向性	
(2)環境変化に対応した国際交流事業の方向性検討・実施	①北陸・韓国経済交流会議の効果的な実施	○「(第20回)北陸・韓国経済交流会議」	・環境が整った時点で、開催について検討していく。
	②海外諸国との交流(ASEAN諸国等)	<p>1. ベトナム</p> <p>1)「第5回 ベトナム政府高官との経済交流会議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策大学院大学(GRIPS)との連携事業 ・4/17福井県で開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により延期。10月開催を検討中。 <p>2)「ベトナム セミナー in 北陸」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在大阪総領事館、北陸・ベトナム相互企業進出促進協会との連携事業 ・日程未定 <p>2. インドネシア</p> <p>「第3回 北陸・インドネシア経済交流会議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策大学院大学(GRIPS)との連携事業 ・8月31日 福井県で開催予定 <p>3. タイ</p> <p>「北陸・タイ経済交流会議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県との連携事業 ・日程未定 <p>4. ミッションなどへの参画</p> <p>北陸ベトナム相互企業進出促進協会、TONIO、JICAなどのミッション参画を検討する</p> <p>【国際交流推進委員会単独事業】</p> <p>1. インド</p> <p>第2回 北陸・インド経済交流会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県インド協会と連携し、富山県で開催予定。 ・日程未定 <p>2. 関西経済連合会 (*)ABCプラットフォームとの連携</p> <p>第2回ABC全体会議(シンガポールにて開催、時期調整中)への参画</p> <p>(*)ABC(Asia Business Creation)とは、関西経済連合会とASEAN7か国(インドネシア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)の商工会議所等が、新たなビジネス創出を目的として立ち上げた会議</p> <p>3. AJEC対応地域国外 関係事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都度 必要に応じて対応 (セミナーの開催なども含む) 	・活動実績を踏まえ、ASEANを中心に継続実施

Ⅲ. 地域の魅力を積極的に国内外に発信することにより、人や企業を惹きつける北陸	2. 広域観光振興	広域観光推進委員会
---	-----------	-----------

第四次中期アクションプラン実施項目(2016～2020年)		2020年度実施計画	今後の課題・方向性
(1) 北陸三県の観光業界が一体となった広域観光の推進	①「北陸観光サロン」等の開催による連携強化	①「北陸三県誘客促進連携協議会」との連携 ②「北陸広域観光推進協議会」との連携 ③「北陸イメージアップ推進会議」との連携 ④「北陸観光サロン」等の開催による連携強化	(継続実施)
	②観光産業を担う人材育成への取組み	①観光産業の魅力の向上に向けた取組みについて検討する。(「北陸近未来ビジョン」の実現に向けて)	(継続実施)
(2) 国内外に向けた北陸の魅力のより効果的な発信	①インターネットを使った国内外への情報発信	①「北陸物語」HP・FBによる情報発信 ・北陸物語HPをリニューアルする ・北陸物語FBによる情報発信(5回程度/週)	(継続実施)
	②北陸新幹線ルートを加えた太平洋側との「ゴールデンループ」の形成	①ゴールデンループのPR ②「北陸文化」としてのブランド化に向けた取組み	(継続実施)
		①インバウンド観光の促進 ・北陸物語HPによる情報発信 ・北陸物語FB(英語)による情報発信(1回/月) ・会員企業の駐在事務所を活用した情報発信 ・昇龍道プロジェクト推進協議会及び中央日本総合観光機構との連携による取組みに参加	(継続実施)
(3) 関東、関西、中部をはじめとする大都市圏との交流拡大	①首都圏・関西圏でのイメージアップイベントの実施	①京浜急行電鉄との連携事業(羽田空港での北陸プロモーション) ②関西圏でのイメージアップイベントの実施 ③NEXCOとの連携事業	効果検証を実施し、継続の可否を検討
	②経済団体、JR他、関係機関との連携による交流事業への取組み	①「昇龍道プロジェクト推進協議会」への参画 ・推進協議会への参加 ②「中央日本総合観光機構」への参画	(継続実施)
(4) 観光客の増加に伴う諸問題への取組み	①外国語表示・Wi-Fi整備等	①外国語表示・Wi-Fi整備等 ・観光インフラに対する要望の実施	(継続実施)
		②観光客の減少に伴う対応(新型コロナウイルス感染症関連) ・政府要望等の実施	2020年度限り
(5) 新たな視点での観光資源の発掘	①長期的視点に立った発掘 ・長期滞在型観光の促進に向けた調査提言等	①観光に係るデータの更なる充実化を図り、観光データ等の分析に基づく広域観光戦略を検討する。 ②他地域の広域DMOの現状把握等	(継続実施)
	②女性ニーズ、外国人ニーズにマッチした施設、観光ルートの整備	①女性ニーズ・外国人ニーズにマッチした観光モデルコースを策定し、情報発信する。	(継続実施)
	③ ニューツーリズムの創造 ・教育観光と産業観光を組み合わせたニューツーリズム ・歴史、スポーツなどのニューツーリズム ・産業観光における時代別、分野別等のルート策定	①「北陸3県修学旅行誘致推進プロジェクト」との連携 ・教育旅行に産業観光の組合せも継続提案	(継続実施)
		①北陸物語HPのリニューアルに併せて、テーマ別観光について検討し、情報発信する。	(継続実施)
	①北陸物語HPのリニューアルに併せて、テーマ別観光について検討し、情報発信する。	(継続実施)	
(6) その他	①委員会運営費	①年2回の開催	(継続実施)
	②その他	②その他	

2020年度 北経連 収支予算

(2019年度 決算対比)

(収入の部) (単位:円)

	2019年度	2020年度	差引(B-A)	摘 要
	決算額(A)	予算額(B)		
会費	88,620,000	68,740,000	▲ 19,880,000	会員数427 会費の暫定引き下げ後
協力金	700,000	700,000	0	石川県商工会議所連合会
雑収入	559,575	600,000	40,425	各種会合交通費謝金等
引当金戻入	5,000,000	0	▲ 5,000,000	
収入合計(A)	94,879,575	70,040,000	▲ 24,839,575	

(支出の部) (単位:円)

	2019年度	2020年度	差引(B-A)	摘 要 (万円未満 切り捨て)
	決算額(A)	予算額(B)		
事業費	59,415,431	49,350,000	▲ 10,065,431	
委員会活動費	23,461,314	23,800,000	338,686	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合対策委員会 860万円 ・ 先端技術推進委員会 350万円 ・ 社会基盤整備委員会 300万円 ・ 国際交流推進委員会 340万円 ・ 広域観光推進委員会 500万円 ・ 広報・組織基盤委員会 30万円
連携活動費	35,954,117	25,550,000	▲ 10,404,117	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員懇談会等 390万円 ・ 他経済団体との懇談会等 640万円 ・ 行政との懇談会 200万円 ・ 支援団体への支援(北陸AJEC等) 685万円 ・ その他事業費 640万円
会議費	2,375,132	2,300,000	▲ 75,132	
人件費	9,528,049	9,600,000	71,951	
事務費	20,233,752	23,000,000	2,766,248	<ul style="list-style-type: none"> 事務所レイアウト変更工事費 200万円 テレワーク対応 (パソコン等購入) 50万円
支出合計(B)	91,552,364	84,250,000		
単年度収支(A-B=C)	3,327,211	▲ 14,210,000	▲ 17,537,211	

(剰余金の部) (単位:円)

前年度繰越金(D)	27,624,456	28,051,667	427,211	
引当金(E)	2,900,000	2,900,000	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立60周年事業引当金 100万円 ・ 西経協総会引当金 70万円 ・ 退職給与引当金 20万円 ・ 情報機器等整備引当金 100万円
繰越金(C+D-E)	28,051,667	10,941,667	▲ 17,110,000	

引当金	2019年度末	2020年度末
2023年西経協総会	2,100,000	2,800,000
60周年事業	2,000,000	3,000,000
情報機器	2,000,000	3,000,000
退職給与	1,427,064	1,627,064
合計	7,527,064	10,427,064